

【新規認定】

日本ジッパーチュービング株式会社

令和3年度
ひょうごオンリーワン企業

認定企業



日本ジッパーチュービング株式会社

代表取締役社長 湯口 正敏 氏

テレビやパソコン、スマホの
ノイズシールドで、
日常生活に欠かせない、
目に見えない技術を提供

PROFILE

京都府生まれ。2011年日本ジッパーチュービング株式会社へ入社。2017年に代表取締役社長に就任。趣味は園芸で、休日には自宅で庭の手入れをしています。



本社工場

—「ひょうごオンリーワン企業」認定のご感想をお願いします。

兵庫県から認定を頂きましたことを全社員が喜んでおります。弊社では兵庫県立大学や工業技術センターと共同研究をさせていただいており、こうした取り組みも評価されたものと感じております。この認定は社員にとってはモチベーションになりますし、弊社の場合、一般の方に使っただく商品を扱っている訳ではないので、会社のことを知ってもらう意味ではよかったと感じております。親会社の社員も喜んでくれていますし、やはり励みになります。

—御社の製品や、社名にもなっているジッパーチューブについて教えてください。

弊社が扱っている製品の大部分はチューブ系やガasket等の電磁波シールド製品、熱対策製品で、どれも一般の消費者が購入するものではありません。特殊な分野であり、兵庫県で製造販売されている企業は他にはないと思います。

ジッパーチュービングは、米国のジッパーチュービング社が由来です。同社が保有しているチューブの特許を日本で販売する目的で、親会社の弘栄貿易社と共に設立したのが弊社です。

通常、ケーブルを束ねるには筒状のものに通してケーブルの端末を処理するのですが、両サイドの端子を処理してからでも後付けできるというのがこの技術の最大の特徴です。さらに、この製品にシールド機能を持たせていることも特徴です。たとえば、シールドの材料でスマホを包むと全くつながらなくなります。とはいえ、一般の方が身近に触れる機会はなく、主に工場やロボット関係、医療関係などで使われています。また、自動車や建設機械などのワイヤーハーネスやカーナビのノイズ対策でも使用いただいています。パソコン、スマホ、テレビのノイズ対策でも使用されていますが、製品自体は筐体の中にあるため、日常生活で目にすることはありません。そういう意味で



配線保護結束チューブ (GPPJ)

例えば、生活との密着度が高いにもかかわらず、知られていない製品です。

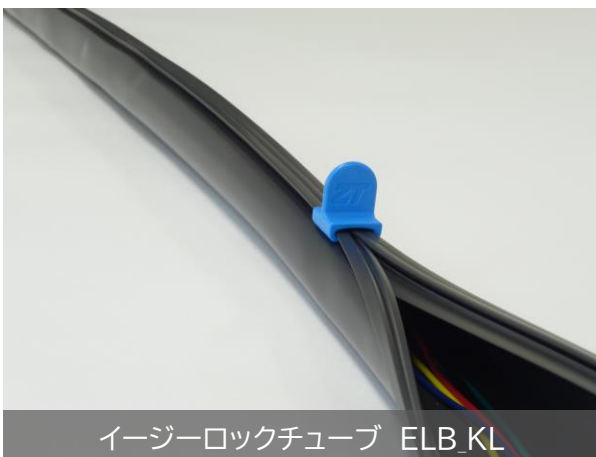
—御社はまさにオンリーワンの技術が強みとなっています。

創業以来、チューブやガasket関連の製造を50年続けています。お客様からのさまざまな要望に応えて、あらゆる種類の製品を作ってきており、今後もそれらを発展させて多くのバリエーションが増えていくと思います。長く使っていただいている製品には30年前に開発したものもあります。

今はお客様の要望も多様です。たとえば、以前は月30万メートル以上の製品を1メートル品で作っていたものを「短くカットしてシートに貼って出荷して欲しい」などの要望もあります。このようなオーダーをもらっても、弊社はすべて社内ですべてに対応できます。そこが一番の強みですね。

—経験とノウハウがお客様に評価されています。

お客様が求めているのは品質と性能です。性能にもシビアな要求を出してくるお客様もいます。



イージーロックチューブ ELB_KL

そういうお客様の期待にいかに応えるかが重要だと思っています。弊社は他社が保有していない分析器や検査機器を取り揃えています。品質と一言で言っても、難燃性を中心にした規格であるUL、ヨーロッパのRoHS指令など含有物質の規制ひとつを見てもお客様によって多種多様です。これらにすべて書類対応しないとイケません。他社では対応できないと言われた書類の対応も行っているの、その点はお客様から評価されていると思っています。お客様が海外拠点に製品を送られることもあり、輸出の際の書類など非常に手間がかかる対応も社内で行っています。この点もお客様から評価されていると考えています。

—とはいえ、そのノウハウと品質を維持するのが難しいです。そうした人材を育成する秘訣は？

中長期で大規模な研修の制度はないのですが、外部のセミナーなどは活用しています。また、入社時にはメーカーとしての安全教育は徹底しています。新卒で入社する社員は本当に稀で、大半が中途採用です。必要な部門、技術、知識に応じて採用しているので、一から新卒の教育のステップを踏むことは稀です。ある程度専門知識を持った人を採用する組織となっています。年齢層の問題もあるので、何年かに一度、新卒採用はしていますが、いずれにしても入社した際には一連の部署での研修は実施しています。製品がどのように作られているか現場で身を持って体験することからスタートします。これは事務やITを担当する従業員、すべて同じです。自社の製品がどのように作られているかを知らなければ先はありません。



品質管理に注力する工場

—お客様の要望に応え続けることはなかなか難しいことに思えます。

ここ5年ぐらいで事業の柱になった遮熱関係の



毎年実施する忘年会では、永年勤続表彰式も開催

製品は技術営業の賜物であると思っています。技術営業がお客様のところに伺い、要望を聞いて、それを持ち帰り、会社の中で試作を繰り返し、ようやく製品となります。遮熱製品が事業の柱となるのに4年半ほどかかっています。地道に、とにかくお客様のところに通って現場からの技術を最大限に活用し、また要望を聞いて改善することを繰り返してきたことで、柱に育てることができました。

— 今後の展望をお聞かせください。

兵庫県立大学と共に商材や製品の研究をさせていただいています。2年ほど経過しますが、こちらも実を結ぶ日がくると考えています。また、お客様と共に開発している製品もあります。大手企業様が製品化の暁には絶対に使うということが目に見えており、将来に向けて取り組んでいます。こちらの動きもここ2年ほど続けています。

来年、2つの工場を神戸テクノ・ロジスティックパークという工業団地に新設する工場に統合移転を行います。そこでは、既存の製品だけでなく付加価値を付けた新製品用のスペースも確保しています。また、親会社が樹脂関係の販売商社で、お客様に自動車関係の会社様が多数あり、親会社の営業と協力をして、EV化にも活路を見出していきたいと考えています。

— 「オンリーワン」をめざす企業へのメッセージをお願いします。

奇をてらうようなことはせず、地道に実直に真っ直ぐな姿勢で続けてきたので、こうすればよいという近道はないと思います。弊社はお客様に対し

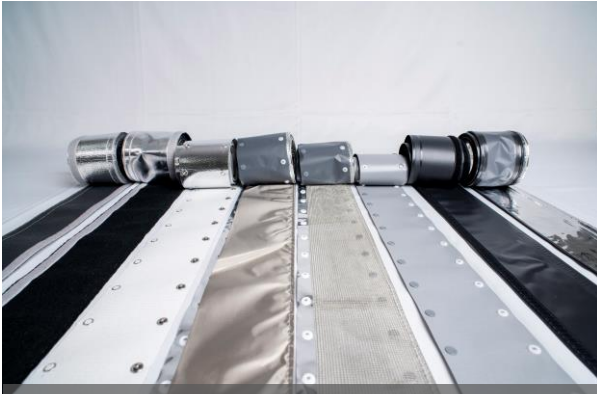
て、正直に真っ直ぐに対応していることは自負できます。自らできることをしっかり行い、奇をてらうことや一発逆転ということではなく、毎日の積み上げが評価につながると考えています。



米国のジッパーチュービング社

TECHNOLOGY

長尺嵌合を可能にした業界のスタンダード 「ジッパーチューブ」



ジッパーチューブ製品の写真

「ジッパーチューブ」は、弊社が大切に育んできた商品であり、ブランドです。この商品の魅力は、主に以下の3点が挙げられます。

1. 配線後、結束が可能な”後付けチューブ”であること。
2. 多種の商品ラインナップを取り揃えており、“ジッパー”、“ホック”、“マジック”からの嵌合選択ができる。また、黒、グレーなどの製品色の選択も可能であり、シールドに注目すると、アルミ、導電布、金属メッシュなどお客様が使用される条件に合わせた商品群を構成していること。
3. カスタム性にも優れ、配線での困り事から、機能性チューブをご提案することが可能な拡張性。

また、新たな嵌合方式で、2年前に上市しました「イージーロックチューブ」は、工具を必要としない方式を採用し、販売を開始しました。



イージーロックチューブ

開発に至った経緯

工業分野で、幅広い用途で使用される配線ケーブル、いわゆる電線は私たちにとって欠かせないものとなっています。「ジッパーチューブ」は、配線を束ねたい、まとめたい、保護したいというニーズの中で、生まれました。

また、ご使用される環境から、「ジッパーチューブ」への様々なご要望をいただき、嵌合方式バリエーション、特殊シートへの加工など製品の広がりを見せています。

独自性

「ジッパーチューブ」の代表であるジッパータイプのチューブでは、独自の勘合構造にて、専用嵌合工具“ZTプライヤー”との組み合わせで、創業以来、形を変えることなく、提供させていただいており、長尺の結束に適しているという特徴を持っています。また、配線を「守る」ことに着目し、電磁波シールド、耐薬品性、耐熱性、耐摩耗性のもなど業界用途別製品もラインナップとして揃えております。

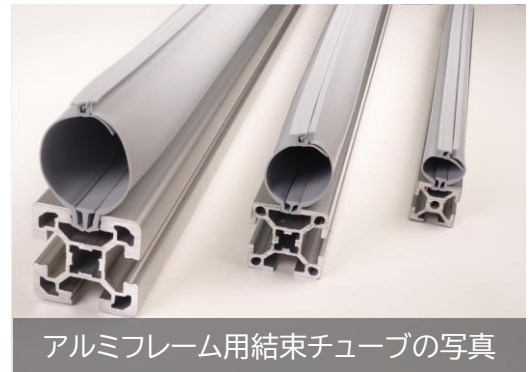
今後の展望

「ジッパーチューブ」は、皆様に長くご利用いただいている反面、樹脂製品であることから環境問題、世界情勢の影響を受け、市場のニーズにお応えするために材料変更を余儀なく行う場合があります。私たちは、再開発を行い、性能を変えることなく、お客様へ真摯に対応してまいります。今後も、形を変えることなく提供し続けてまいります。

TOPICS

産業用部材での骨組みに利用されるアルミフレーム用に特化した“アルミフレーム用結束チューブ”を開発！

日本ジッパーチュービング株式会社は、アルミフレーム用に特化したチューブである“アルミフレーム用結束チューブ”を開発しました。この製品は、嵌合にZTJ独自の方式を採用し、開閉を容易にしました。



アルミフレーム用結束チューブの写真

沿革

- | | | | |
|-------|--|-------|---|
| 1972年 | 弘栄貿易株式会社とジッパーチュービング社(米国)が合併事業契約を締結 日本ジッパーチュービング株式会社を設立 大阪府四条畷市においてジッパーチューブの生産を開始 | 1997年 | 西神工業団地内に第二工場を建設 |
| 1973年 | 大阪府四条畷市から神戸市須磨区内に工場を移転 | 1999年 | 埼玉県入間郡にて埼玉工場を開設 品質保証の国際規格ISO9001認証取得 |
| 1978年 | 自動車向けジッパーチューブの生産を開始 | 2000年 | 第二工場を増設 神戸市にて合併会社日本バンガード株式会社を設立 |
| 1980年 | シールドメッシュの生産を開始 | 2002年 | 香港でKOHYEI-ZIPPER HONG KONG LTD. を設立 |
| 1981年 | ノイズシールの生産を開始 | 2003年 | 韓国で合併会社JOINSET CO., LTD を設立 KOHYEI-ZIPPER HONG KONG LTD. での生産が本格的に始動 |
| 1986年 | 神戸市西区内の西神工業団地内に自社工場を建設し移転 ホックチューブの生産開始 | 2004年 | 埼玉県富士見市に埼玉工場を移転 |
| 1990年 | シールドフォームの生産を開始 | 2006年 | 環境マネジメント国際規格ISO14001認証取得 |
| 1992年 | 第一工場を増設、スリーブの生産を開始 | 2007年 | 「神戸発・優れた技術」として認定される |
| 1993年 | マジックチューブの生産を開始 | 2008年 | シールドフォーム62Tシリーズの生産を開始 |
| 1994年 | シールドウィンド、クリップタイプCGC、導電性テープの生産を開始 | 2013年 | 遮熱チューブおよび遮熱断熱カスタマイズ品を販売開始 |
| 1995年 | フラットケーブルに対応したDK800シリーズの生産を開始 韓国で合併会社EXPAN社を設立(後のJOINSET CO., LTDの前身) | 2020年 | イージーロックチューブシリーズを販売開始 |
| | | 2022年 | ひょうごオンリーワン企業として認定される |

会社概要

所在地 〒651-2271
兵庫県神戸市西区高塚台3丁目2番8
電話 078-991-4171
FAX 078-991-4174
URL <http://www.ztj.co.jp>

従業員数 119名
資本金 1,000万円
設立 1972年
代表取締役会長 槌橋 貴彦
代表取締役社長 湯口 正敏

事業概要

開発-生産-加工-供給の一貫体制下で熱、電磁波、ケーブルダメージなどのトラブルを解消するEMI対策部品、配線結束保護チューブ、熱対策品を開発・製造。